

平成 27 年度第 2 回博物館懇談会議事録

日 時：平成 28 年 3 月 16 日（水）17 時～18 時 30 分

場 所：野田市市民会館 松竹梅の間

出席者：懇談会委員・沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館館長・関根一男、同学芸員・柏女弘道、大貫洋介、岩田明日香、寺内健太郎（書記）。

1. 市民の文化活動報告展「おばあちゃん、おじいちゃん これ、な～に？ なつかしの暮らしと道具」について

●市民の文化活動報告展「おばあちゃん、おじいちゃん これ、な～に？ なつかしの暮らしと道具」展示見学・説明

大貫学芸員より博物館展示室で展示解説を行った（議事録省略）。その後市民会館松竹梅の間に会場を移し、大貫学芸員より補足説明と、意見交換を行った。

・入館者数は 3 月 16 日（水）時点で 7424 人、1 日平均約 120 人である。関連事業が好評であった。2 月 13 日（土）に実施した「使ってびっくり！おばあちゃん・おじいちゃんの道具」（第 1 回）で行ったかつお節削り体験は、保護者の方々にとっても珍しかったようで、自分でやってみる人もいた。けが防止のために手袋をつけてもらった。第 2 回は、「むかしの電話機と計算機を動かしてみよう！むかしのあそびで遊んでみよう！」を実施する。

・3 月 12 日（土）に実施したミュージアム・コンサート「昭和の名曲を楽しもう！」は「居間」コーナーをバックに、なつかしの昭和歌謡を来場者が歌うというコンセプトで、歌詞カードを配布した。来館者数は 155 人と盛況で、途中から椅子が足りなくなり立ち見となった。また開催してほしいというリクエストもあった。

・ご出演いただいた大柴こういち氏は、眼鏡店を営んでいる方だが、作曲家でもあり、「野田市立みずき小学校校歌」や「サルサ・枝豆賛歌」などを作曲している。「花言葉の唄」に始まり 16 曲を演奏してもらった。

●意見交換

委員：この企画展の良い点は、イラストや説明が機能別になっていて親しみやすいところ。また、テーマ自体も話題性がある。ワークショップもいろいろなものが出るだろう。悪い点は、展示品は旧野田地区の資料が多く、関宿、福田、川間等、他の地区の人たちにとっては興味を持ちづらい。「野田市」の郷土博物館なのだから、もう少し普遍性を持たせる必要があるのではないか。生活文化展でも関宿地域は遺跡調査が進んでいないという理由であまり取り上げられていないと思うが、例えば「なつかしの道具探究会」に関宿地区の資料も含めて集めるように働きかけるべきだったのではないか。関宿は城下町であり、商人の町である野田とは性格が違う。

大貫：探究会と展示を作っていくなかで話題にもなったのだが、町場と農村では家の造りや食卓の様子など生活が大きく異なる。今回は、今までに探究会で調査してきた資料をも

とに展示したため偏りが出てしまった。

委員：今回は野田地区の生活道具を中心とした展示であることを、最初に一言断っておけばよかった。

委員：この企画展は、今までの展示の中でもとてもよかった。まず、キャプションに資料名のみが記されているのが簡潔でよかった。説明文が入るとかえって煩雑になってしまう。また、時代も限定されているのがよい。人間、懐かしいものには惹かれるし、子どもたちも興味を持つので、来館者には好評だったであろう。先ほどの話にもあったが、集めた資料のなかで展示をしなければならないので、偏りが出てしまうのは仕方ないだろう。だが、新たな資料の情報を募るなど、将来的に発展させられるような工夫はあってもよかったと思う。

関根：キャプションに学芸員が描いた探究会会員の似顔絵を付けたことも親しみやすさの要因となっただろう。

大貫：展示を見た来館者からも、「自分も同じようなものを持っている」等の情報提供があり、何点か寄贈してもらった。小学生に道具の体験をしてもらう際は、やはり状態が良くなくては体験用として使うことが出来ない。この展示をきっかけに良い状態の道具を収集して、今後活用させていきたい。

委員：今回のミュージアム・コンサートはとてもよい。出来ればもっと頻繁にやってもらえるとありがたい。また、関宿の方も調査してもらうのは大切なことだが、その際に観光資源を発掘してもらいたい。博物館の事業が観光とどこまで関わるのか分からない部分もあるが、町に人が来てくれるようになればよい。なつかしの道具探究会メンバーとのコミュニケーションが深まれば関宿との繋がりも出来てくると思う。

関根：関宿の方から展示を観に来てもらうにはバスツアーがあればよいのか。

委員：関宿から小学校の見学は来ているのか。

大貫：今回の展示期間中は関宿の小学校からは来なかった。以前に来てくれたことはある。

委員：60代くらいの世代がどのような生活をしていたのか、というのは伝承していかなければ伝わらない。だから、出来る限り小学生には来てほしい。

大貫：今回は小学生向けの展示だったので、チラシの配布数を増やした。今までは学年ごとに配布していたのを全クラスに配布した。また、学校単位で見学に来るだけでなく、宿題で出されたために来館した小学生もいた。

委員：地縁の関係で言えば、野田の街中に来るのは木間ヶ瀬あたりに住んでいる人までで、関宿台町の方の人たちは日常で野田まで来るといった感覚がないのだろう。

大貫：聞いた話では、市のバスを確保するのがとても大変で、日にちや他の施設との兼ね合い等で見学先が制約されてしまう。公共交通機関を使うわけにもいかないのです、どうしても市のバスを使うことになる。

大貫：学校に道具を持って学芸員が出向く出前授業もやっている。

柏女：新規採用教職員研修の際に、学芸員より授業等で活用できる博物館の利用方法につ

いてのプレゼンテーションをする機会をいただいております、学芸員による出前授業なども出来るということが学校の先生方に徐々にではあるが浸透してきている。また、博物館を活用してもらうために教員向けのパンフレットを作成中である。完成したら全教員に配布していきたいと考えている。

委員：パンフレットを作成する際に、教科書を参考にするとよい。内容に即した提案が来ると、先生にも受け入れてもらいやすいだろう。ワークショップを含めてバリエーションを増やしていけばよい。

大貫：今回の展示は、小学3年生の教科書を参考にしており、そこからヒントを得たところは大きい。探究会メンバーも小学生に説明することが楽しかったようで、メンバーのモチベーションの向上にもなった。

2. 企画展「野田に生きた人々 その生活と文化 2016～考古資料と新収蔵品から～」について

●岩田学芸員より以下の説明を行った。

・タイトルについて以前より指摘があったが、メインタイトルは変更せず、サブタイトルを付けることで、展示内容をイメージしやすくした。展示内容は、考古資料と新収蔵品の展示となる。

・関宿地域から出土した考古資料の出品は少ないが、なるべく地域が偏らないようにして出品する予定である。新収蔵品については、地域的な点で言えば、昨年度購入したなかで関宿関係の古文書が含まれた資料などがある。いろいろな地域の資料を出品することで、来館者に来てもらえたらと思う。

●意見交換

委員：このタイトルは、いつの時代に焦点を当てているのか。もっと具体的に書いた方がよいのではないか。チラシに埴輪と徳利が並んでいる。

岩田：まったく異なる二つのテーマを同時に展示するので、タイトルを一つにまとめるのが難しいところである。

委員：「野田に生きた人々」はよいとして、「その生活と文化」の部分を具体的に書く必要がある。新収蔵品については「そのほかに新収蔵品も展示しています」と言ってしまえばよいのではないか。考古資料が主体なのであれば、そこを具体的に書いてほしい。

柏女：重要性としては甲乙つけがたいところである。新収蔵品の公開もこの展示の重要な部分である。

委員：新収蔵品についてはタイトルに入れておき、チラシの写真は考古資料のみでよいのではないか。新収蔵品展はルーティンワークの要素もある。やはり、考古資料の方がメインになるのではないか。

委員：生活文化展のタイトルは修正できないのか。

岩田：懇談会の意見を尊重して、今後も検討していきたい。

3. 平成 28 年度事業計画について

●説明及び意見交換

柏女：平成 28 年 7 月より開始する市民コレクション展では張子人形の展示を開催する。以前、土人形展を行った高梨東道氏のコレクションを展示する。張子人形は高梨氏のコレクションのなかで土人形と双璧をなすものとなっている。平成 28 年 10 月より開始する秋の特別展は川間村村長等を勤めた染谷亮作を取り上げる。地域的には川間を中心に扱っていく。平成 29 年 1 月より開始する市民公募展は、仕事道具をテーマとする予定である。個人のキャリアのなかで仕事に焦点をあて、その仕事を支えた道具を出してもらう。

関根：市民コレクション展は柏女学芸員、特別展は大貫学芸員、市民公募展は寺内学芸員が担当をする。

委員：特別展のタイトルは副題をうまく使って考えてほしい。

関根：本日は貴重なご意見をどうもありがとうございました。